

# T 雄君の幼稚園生活

\* \* \* 幼稚園入園後一月半 \* \*

\* \* \*

\* \* \*

.....  
T 雄君が幼稚園入園前からの記録を掲載してきましたが、幼稚園生活  
一月半ほどたったある日、T 雄君の幼稚園での一日を記録させていただ  
きました。前号までの記録と合わせて、ごらんいただきたいと思ひます。  
.....

T 雄君の幼稚園では子どもの八割くらいがスクールバスで通園して  
いる。朝スクールバスが着くまでは（九時十分頃）近所から通っ  
ている子どもと逆に速くから通っているごく一部分の子どもがちら  
ほら顔みせ、スベリ台やブランコで遊んでいてまことに静かであ  
る。そしてスクールバスが着くと、どっと賑やかになる。玄関を入  
ると巾広い廊下がまっすぐ走っていて、左側が保育室、右側は広い  
庭で廊下から自由に庭に出られる。

T 雄君は普通のバスで通っていて（スクールバスが通っている方  
向が少しちがうので）早く登園するメンバーのひとりである。登園  
すると元氣いっぱい遊んでいる、と先生が話された。

T 雄君の「はなの組」の部屋には二日前に馬事公苑に遠足に行っ  
た時の絵がはってある。ほとんどの子どもが馬をかいており、中に  
は、ちゃんと馬の形になっているものもあり、馬だといわれればそ  
うかなと思われれるものもある。机は六人が一グループになるよう  
に並べてある。T 雄君の席は、廊下に近い。記録をとりに行った日は

どうしたことか、T 雄君はスクールバスが着いてしばらくしてから  
登園した。

## 登園（九時三十分）

「先生おはよう。」

と片手でかばんをおさえ、勢よく廊下を走って来た。部屋には入ら  
ず廊下に立って、かばんをふりながら庭のあちこちを眺めている。

それからかばん掛けのところに行き、おもむろにかばんをかけてす  
ぐ近くにある洗面所で口をすすぐ。ハンカチで口をふき

「ちょっと行ってきていい？」

と先生に言つて、玄関の方を走つて行きすぐもどつて来る。外に出  
るためズックをはきかえる。ちょうどだれかひとりくつを出しては  
きかけていたが、その子どもをのけるようにして、庭に走り出る。  
どこに行こうかというように、鉄棒、ブランコ、スベリ台と見わた  
していたが、さつと走り出してスベリ台のすべる方から、両手をつ

いて登って行く。非常に速い。そして、スートこれまた非常に速くすべり、今度は階段を上って行く。

「ちょっとまってて。」

と言ったが誰に言ったのかわからない。部屋に走って行き帽子をかぶって出て来る。またすべる方からのぼって行く。足をひろげ、すべり台のわくに足を上げて、勢よくすべる。すべり台の横に子どもが立っている。足がその子の顔にぶつかりそうだったがぶつからなかった。

「M雄ちゃん。」と友達を呼ぶ。返事はない。

すべり台では子どもが五、六人遊んでいる。T雄君はまたすべる方からのぼって行く。上からすべってきた子どもにぶつかる。その子の頭をのりこえて、どんどんのぼって行く。

助手の先生が下で

「T雄君あぶないからやめなさい。」

と注意する。ちょっとふりむいたが上までのぼり鉄のわくをのりこえる。上では子どもがひとり座っている。その子どもをける。別の子どもが階段をのぼってくる。その子の帽子をつつく。だれかがT雄君をたたく。

「よくもやりあがったな。」

と、ける。けられた子どもも泣き出す。助手の先生が下から

「いけません。」という。

「ぼくのことけつとばすんだもの。」

と、また別の子どもも帽子をつつく。

助手の先生に

### 遠足の絵について——母の記録

「昨日、遠足のお帰りの時、先生が『明日は遠足の絵を書いてもらいます』っておっしゃったけど、どうだったかな」

「僕かいたよ。こうやって、こうやって、数字のね1を書いてひゅーんてやって2を書いてひゅんてやって3をかいて4をかいたらへんになってエーイってやったのでそれが馬のしっぽみたいになっただよ、先生が『お馬かきなさい』っておっしゃったから書こうと思ったけどわからないんで『先生どうやってかくのかわからな〜い』っていったら、『これお馬?』ってきかれてわからなかったけど、『お馬ね』っていわれたから『そう』っていったの。」

「いっしょに行きましょう。」

とうながされ、先生と手をつないで歩いて行く。途中からひとり

でつな上りのところに走って行く。

助手の先生「上の方までのぼってごらん。」

T雄「うん。」

とうなずいたが、ボンととびついたのみに、すぐたいこ橋に走って行く。一ばん高い所まであがり、立って

「おねえさん。」

と助手の先生に手をふる。とびおりて、走って助手の先生のところに行く。先生といっしょに花を見る。指きして、先生とはなしをしているようにみえたが、すぐ、走ってランコに行き、のっていた子どもをのけて立ってこぐ。すわったり立ったりして、ブイブイこ

ぐ。おろされた子どもが

「かしてくれよ。」

と手を出したりひっこめたりしているが、T雄君は助手の先生の方をみていて、

「おねえさん、みて。」という。

助手の先生

「だめ、だめ、あぶないわよ。」と走って来る。

保育室で

三、四人つみ木を背丈より高くつみあげて、あそんでいる。そこへT雄君が走って来て、

ボンとたおし、

「わっ。」

といて、にこっとする。先生の方をみて、笑う。他の子ども達はつみ木を片づけはじめ。T雄君は外をかけたまわって来たので、汗びっしょりになっている。友達が運んできたつみ木をいっしょうけんめい片づける。

「ぼうしはぼうしかけ。」

と友達にはやさしくて帽子をかけに行く。

途中で、Pの頭をつつつく。席にすわって、外を見ている。大部分の子どもは部屋にそろった。T雄君は横むきに腰かけて、外を見ている。

T雄「Hちゃんまだわかんないんだな。」と一人ごとをいう。(部屋に入る時間なのに外で遊んでいるという事らしい)

外から女の子が二人入ってきて、T雄君をみて、  
「あつT雄ちゃんがいるっ。」

といて、さもおどろいたような顔をする。

(T雄君はこわがられているのか、あるいは休んでいると思われていたのか。)

先生「お友達を呼んできてちょうだい。」

T雄「はいっ。」

と走ってスベリ台に行き、Nをひっぱってくる。手をはなしたら、Nはまたスベリ台の方へ行こうとする。

「こらっ。」とおいかけて、連れて来る。

T雄君立って外をみている。

先生「T雄ちゃんおこしかけて。」

T雄「はいっ。」

とななめに腰かける。先生出席をとる。

T雄君、腰かけの背にまたがる。

先生「どなたがいちばんおそいかしら。」

M子さん M子さん、どこでしょう。(うた)

みんな「ここです、ここです、ここにいます。はーやくおせきにつきなさい。」

T雄君立って、オルガンのところに行き頭をつけてきく。すぐもどる。背中側の子どもをたたく。オルガンに合わせて、歌がつづいている。みんな手をたたいている。T雄君はいいかげんにたたく。立って水道に行く。

「おなががすいた。」

とひとりごとをいう。席にもどり、腰かけをかたかたさせる。

「も一度おあそび」

先生は粘土細工の板を運んできて

先生「どうして板をつかうのでしょうか？」

子どもA「きたなくなるから。」

子どもB「お洋服が白くなるから。」

先生「この板の上だけでして下さい。」

子ども達「はいっ。」と返事をして同時に手をあげる。

先生「ここのお席の方と、ここのお席の方、粘土しましょう。あとの方たちはお外に行っていっちゃい。」

T雄君は立ち上って外にいく子どもをみている。いすを出したまま行こうとする。先生に

「おいすをしまっ。」

と言われ、片づけて、帽子をかぶって出る。

ブランコが三つ並んでいる。ひとわたり、みて歩き、すべり台に行く。ひとすべりにすべって、汽車のようななっこうで砂場に走って行く。ちょっと止まったが、ブランコに行く。ブランコの鎖を板にくるくるまきつけて、短くしてからのろろとするがうまくいかない。もとにもどしてはまきつけたりしていたが、やめて立ちのりする。となりのブランコにのっているCに

T雄「二人のりでいいことしようよ。」

C「——。」

しばらくして

C「うちに帰ったらいいものがある。」

T雄「なに？」

C「きれいなきんぎょがいっぱいいるんだ。」

C「いろいろないろもあるんだ。」

T雄「まほうもある？」

C「——。」

T雄「ブランコくるくるまわしてもいい？」

C「——。」

T雄君は土をけって、ブランコをくるくるとまわし、足をちぢめる。ブランコがぐるぐる一回転し終った時Cを見てにこっとする。

C「おれね、とりかえてほしい。」

T雄「じゃ、とりかえてやるよ。」

とブランコをおりて、つなのぼりに行く。

C「ブランコでさかあがりできないだろう？」

T雄「どれ。」

と、ブランコにもどり、ブランコの上に立つ。

「やーまのくーみ(大きい組)おあつまり。」

と大きい組の子どもがかけて来る。T雄君は大きい組の子どもを見て走り出す。大きい組の子ども三人がおっかける。

「たすけて たすけて。」

と走って部屋の方に行く。大きい組の子どもは部屋に入る。T雄君はまたブランコにもどって来る。

砂場では三人の子どもが砂をもりあげている。ブランコをゆつく

りこぎながら、

T 雄「Hたちなにしたい？」

H「——」。

T 雄は砂場にやって来て、

T 雄「てつきょうつくってやろう。」

H「いやだよ、これ、やまだもの。」

T 雄「じゃ、てつきょうつくろう。」

と、皆から少し離れた所で片手をすつと砂の上ですべらせ、溝を一本つくって、ブランコに行く。

先生と子ども達がはなしながら歩いて来る。T 雄君は先生のところに行き何かはなししている。鼻にしわをよせ、てれているように。走ってひとりで鉄棒に行き両手をはなしして、足でぶらさがり、しばらくしてボンとおりる。もう一回する。先生と子ども達も鉄棒のところに行き、みんな手をつないでつなのぼりのところに行く。T 雄君は途中から走り出し、つなにぶらさがり、ブラブラしている。やがて、くつをぬぎ、くつ下をぬいで上にのぼろうとする。

「がんばって、がんばって。」

と先生にいわれるが、出来そうもなく、わらっている。

「もう少し、もう少し。」

と先生におしてもらったのぼってゆく。

ちようちよがとんでくる。T 雄君は、Lちゃんと、おっかけて行く。ちようちよは垣根をこえてとんでいく。Lちゃんと二人で垣

根によりかかって、しばらくみている。Lは部屋の方に行く。

T 雄君は、たいこ橋の三段目に横むきにしをかけて、くつ下をはく。ちようちよがひらひら、舞いもどって来る。くつ下を半分はきかけたまま

「あつ、きた、きた。」

とおっかけてゆく。今度は高くとんでいってしまう。たいこ橋に帰って、くつ下をはく。部屋では粘土細工がつづいている。ひとりで汗をふきながら、ボンボン帰って来る。

### “粘土細工”

T 雄君自分の席にすわる。

T 雄「ぼくのばんは？」

先生「ちよとまってね。」

水道に行き、口のみする。

先生「だめだめ、コップを持っていらっしやい。」

そこらを歩いていた二人をつかまえて、いっしょに走る。

先生「T 雄ちゃんここにいらっしやい。」

にこにして席につく。力をいれてこねる。

もう出来上って、

「人がせつかくつくったんだからこわしちゃだめよ。」

とみんなに言って、外に出ていく子どもや、板の上に大事そうのせて、先生にわたして出て行く子ども達もいた。

T 雄君はとりの子どもと顔をみ合わせて、わらっている。

先生「何ができるの？」

A 「きりんだって。」と、となりの子どもがいう。

先生「立ったらすごいわね。Aちゃんのは？」

A 「だるま。」

先生「そう。」

T雄君は両うでに力をいれて、ボールくらいの玉をつくる。

顔をしかめている。

T雄「大きいでしょう。ほらっ。」

と、となりのAちゃんにみせようとする。粘土がおちる。

T雄「あっ、おちちゃった。」

と机の下にもぐって、ひろいあげる。

T雄「せんせー、ちよっときて、ゆきだるま。できた、ほら、ゆきだるま。」

先生「あら、頭がないじゃないの。きりんどうしたの。」

T雄「つくりにくいよ。」

T雄「あぶらねんどでこういうのあるよ。」

先生「何をつくった？」

T雄「たいてい、だんごみたいなもの。」

他の子ども「せんせーみて。」という。

T雄君の粘土またおちる。

T雄「おにぎりできた。おにぎりできた。」

立って、カタン、カタンと板に粘土をぶつつける。

ホットケーキをつくった子ども「きるもの。きるもの。きれいにきれないと、こまっちゃうよ。」

T雄「こうすればいい。」

と手をたてて、きるまねをする。

A 「きるもの、ねんどでやったら。」

K ははさみを持って来る。

T雄「Kちゃんていやだな。せんせー、Kちゃんて、はさみでやってますよ。」

K 「きるほうじゃないよ。」(鉄の刃の方はつかっていないということ。)

T雄君力いっぱいこねる。

向かい側の子ども達

「ぼく、ねんどやったことあるよ。」

「ぼくもねんどってやったことあるよ。」

「ぼくんちのねんどはちやいろだよ。」

「きみのおようふうくみたいだね。」

「こういうのはねずみいろだね。」

T雄さっきからだまってくるくるまわしている。

K 「T雄って、もうだいきらい。」

T雄はまたこねはじめる。

〃おかえり〃

窓から、スクールバスの通るのが見えた。

「あっスクールバスだ。」

T雄君は立ち上り、手を洗いに行く。

先生「お片づけしましょう。つづきの方、またしましょう。」

だれか「はーなのくーみ、おーかえり。」という。みんないい出す。

T雄君、友達をつつついて、廊下の方へ、おっかけて行く。廊下にいた子どもの帽子をはねる。つきつきと、帽子をはねて逃げる。ちよんとつついて走って部屋に入る。

かばんを肩にかける。向こうから歩いてきた子どもにとびかかる。

先生「T雄くん、いけませんよ。」

先生「今日は何曜日？」

「火曜日。」(ほんとうは土曜日)

とだれかがいう。

みんな「火曜日、火曜日。」という。

先生「今日は土曜日ですね。」

子ども「土曜日、土曜日。」

先生はひとりずつ名前をよんで、タオルをわたす。T雄君は立つてオルガンのところに行く。

「まだっ。」と先生のところに行く。

タオルをもらって、一度席につくが、タオルをふりまわして、友達をおっかけて行く。

オルガンがなり出す。

みんなうたいだす。

先生「タオルを手持っている方カバンに入れて下さい。」

こども達「はい。」

先生「今日はお手紙があります。」

T雄「せんせい、くばらせて。」

D「くばらせて。」

先生「ふぎけないでくばってね。」

二人はうなずいて、くばって歩く。

T雄「せんせいDちゃんは？」

先生「手をあげてもらいなさい。」

T雄「Dちゃんいるの？ てをあげて。」

走ってくばる。くばり終わってにこつと笑って席につく。横むきにすわり、外をみている。机の上で手をすべらせている。

先生「どうもありがとう。」

先生さよならの歌がはじまる。二、三人キーキー声を出す。

先生「T雄君。」

T雄「T子ちゃんだって大きい声だものねえ。」

とグループの子ども達にいう。

みんな一列で廊下にならぶ。T雄君はとんで出て来る。前に並んでいる子どもの両耳をチョイとひっぱりその手を自分の鼻のところ  
に水平におき、背くらべをする。ポーツとみんな汽車のようにつな  
がって玄関に行く。

バスに乗って

同じ方向に帰る大きい組の子ども三人といっしょに停留所(始発)まで走って行く。記録者がおいついた時は、すでにみんなバスに乗  
っていて運転手のおじさんをいじめていた。

運転手「みんながいじめるとおじさんにげちやうよ。」

子どもA 「にげたって、おいかけていくよ。」  
子どもB 「にげたらどうしやにひかれちゃうよ。」

運転手 「おべんとうは？」

子どもB 「おべんとうは？ だつて。」

子どもC 「おべんとうだつてさ。」

と、さもおかしいというように笑う。

ト雄君だけ、運転台の後に立っている。他の三人は運転台の横の席にすわっている。

車掌さんに危いからといわれて、ト雄君もすわる。発車する時、車掌さんがドアを閉めるごとに、ト雄君はすわったまま手をのぼしてドアを押すようにする。他の三人は笑ったり肩をくみ合ったり、つき合ったりしている。ト雄君が他の三人と喧嘩する様子はみられなかったが、いっしょに仲間になっているとも思えない。

バスから降りて、子ども達は、運転手のおじさん達に「さよなら、さよなら。」と手をふっている。車掌さんの話では、子ども達がのってくるのがたのしみだということだった。

ト雄のこの頃 —— 母の記録 ——

一三・四八分

バスを降りて、家までの間に急な坂が一つある。ト雄は空腹と疲れとでその坂を昇るのに容易でない。

一四・〇〇

家へつくと、手洗い、うがいをすませ洋服をきかえると食事をする。(お弁当のある日でも、一食より少なめのいためごはん、サンドイッチをつくっておく。)

この頃は殆んど近所の友達と遊ばない。遊びに来てても、ことわる。

シャボン玉、水遊び、スベリ台を妹と二人でやる。洗濯、食器洗いをやりたがる。

「今日は僕に洗わせてよ。昨日はライポンであらったから、今日はみがき砂であらう。」

「僕のハンカチとくつ下、もうあらっちゃった？」

「ええ、今日は急いでいるから」

「じゃあ、明日はきつと僕に洗わせてね。幼稚園から帰ったら必ず洗うからね。」

一六・〇〇

おやつ

たまに、友達が遊びに来てても、ト雄の幼稚園のものなどきわると、すぐ泣く。

また、母が坐っているときに、妹がひとりで遊んでいると、そっと来て、「だっこして」

と、いう。抱いてやると、妹が来る。二人抱くと窮屈なので妹が押すと、ひざの下に落ちる。そして泣く。

いすにこしかけて、後にそるので、「後に倒れると危ないからやめなさい。」

というところ  
「じゃあ、立ちだっこして。(立ってだっこをする)」

という。